

デイケア ひまわり

こんにちは。
 私達、デイケアひまわりは介護保険による通所リハビリ施設です。
 ひまわりでは介護度や身体状況に合わせたリハビリや看護師による健康チェックを行いながら入浴・食事やスタッフとともに楽しいレクリエーション・各種イベントを提供しています。
 是非、私達と楽しい一日を過ごし、新しいお友達を作って活気のある毎日を過ごしませんか？
 心も体も元気になりましょう！



糖尿病連携手帳の使用について

・・来年より糖尿病連携手帳が配布されます・・

全国的に糖尿病患者さんおよびその境界型の患者さんが増加している中、厚労省は病院と診療所との連携を密にするため、病院と診療所の連携を積極的に推進してきました。

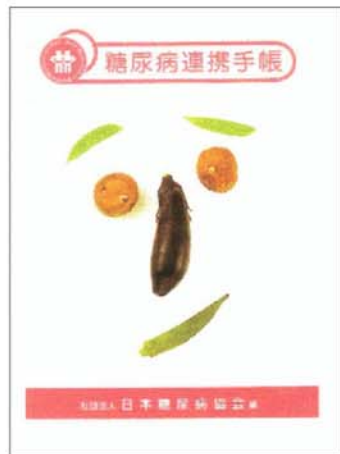
日本糖尿病協会は平成22年8月「糖尿病連携手帳」を作成し全国的に医療機関で使用されてきています。

野上病院では2011年1月1日より正式に糖尿病患者さんにお配りして運用することになりました。

当院で対応できない関連する疾患は近隣の医療機関に紹介し、また当院で通院していないかかりつけ医である診療所からの患者さんの紹介を受け、連携して地域の糖尿病患者さんの治療にあたることにしております。

この「糖尿病連携手帳」を利用して、糖尿病患者さん各自が現在おかれている病状がどうなのか、どんな検査が必要か、日常どんな療養をしたらよいかを野上病院はチームを作りを行っており、さらに地域の皆様に貢献できる病院として位置づけたいと思います。

(野上病院糖尿病指導委員会)



お年寄りの栄養障害と病気について

たんぱく質を十分取らないと病気になりますよ！



健康長寿への道

(その4)

先日あるTV放送で、お年寄りが普通に三度の食事食べているのに栄養不良になっており、病気になり易くなっていると放送していました。確かに入院してくるお年寄りの患者さんの中には血液中のたんぱく質や筋肉作っているアルブミンというタンパク質が減っており、病気に対する抵抗力すなわち免疫力が低下している人が多いのも事実です。

病気の治療と共に食事を十分に摂取できる患者さんは順調に回復して行きますが、自力で食事できない患者さんは回復が遅れるかまたは悪化していくことが多いのです。

健康なお年寄りの方が食事のバランスを考えず、好きなあっさりとした食べ物ばかりで、肉や魚や乳製品(低脂肪牛乳、ヨーグルトなど)や大豆製品(豆腐、納豆など)を積極的に取らないと身体を支える筋肉が弱くなり、骨粗鬆症や整形的な疾患にもかかり易くなり、また免疫力の低下もきたし肺炎や膀胱炎など炎症になり易くなり、命さえ失うことさえあるのです。行政もこの点できるだけ健康長寿を得るために、住民の指導の一環として積極的に栄養指導や調理指導を取り入れてきています。何もたんぱく質摂取など栄養バランスは年取った方だけの問題でなく、国民全体の健康に対する問題でもあるのです。

いかに生活習慣が大切か再度我々は認識する必要があります。

内科 林 達信



ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチン

通常5歳以下のお子様がヒブに感染すると、髄膜炎や敗血症、急性喉頭蓋炎などの深刻な病気になる可能性があります。生後3カ月から2歳になるまでは、かかりやすいので注意が必要です。

ヒブワクチンの接種回数

- ・生後2カ月から7カ月未満のお子様 (合計4回)
初回免疫として4週から8週間隔で3回接種後おおむね1年後に追加接種が必要です。三種混合ワクチンと同じ日に同時接種ができます。
- ・生後7カ月から1歳未満のお子様 (合計3回)
初回接種として4から8週間隔で2回、その後1年後に1回追加接種が必要です。
- ・1～5歳未満のお子様
1回の接種で抗体の獲得が得られるとされています。
- ・5歳以上のお子様や大人
ヒブワクチンは不要です。



「小児用肺炎球菌ワクチン」(生後2カ月以上9歳以下)

多くの子供の鼻やのどにいる身近な菌ですが、体力や抵抗力が落ちた時などにいろいろな感染症をひきおこします。細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、中耳炎など。

- ・生後2カ月から4週(中27日)以上の間隔で3回、1歳を過ぎたら(12～15か月)4回目を接種します。

ヒブワクチンと同時接種することで、細菌性髄膜炎予防に非常に有効です。極めて安全性が高く、効果が高いワクチンですので、1日も早い定期接種化が望まれます。ヒブも肺炎球菌も高価なワクチンですので、どちらかを接種しようとお考えでしたら、ヒブワクチンを優先してください。

(薬剤部 常國)